

口語英語研究 (4) 人と別れるときの挨拶表現に関して

木戸 充・*Stuart J. SANDERSON

日本獣医生命科学大学 英語学教室・*高宮学園 英語科

要約 本稿は口語の英語表現に関する研究である。本稿の主題は相手と別れるときに用いられる慣用的な挨拶表現である以下の(a)から(e)である。(a) morning/afternoon/ evening/night を含む Good morning./Morning./Good afternoon./Afternoon./Good evening./Evening./Good night./Night. : (b) see you を含む See you./See you later./See you around./See you soon./See you tomorrow. : (c) bye を含む Good-bye./ Bye./ Bye-bye. : (d) Good luck. : (e) “have a ~” を含む Have a good day./Have a nice day. 本稿ではこの (a) から (d) が使われる状況やそれぞれが持つ性質について論じている。なお、口語英語研究 (1) (2) (3) と同様、本稿は英語を母語とする者と日本語を母語とする者の長時間にわたる論議を基にして書かれている¹⁾。

キーワード : Good morning./See you./Good-bye.

日獣生大研報 61, 71-86, 2012.

1. はじめに

本稿は現代の口語英語に関する研究であり、主題は主に相手と別れるときに用いられる挨拶表現である。

第2章「Good morning. など」では morning/ afternoon/ evening/ night を用いる①Good morning./②Morning./③Good afternoon./④Afternoon./⑤Good evening./⑥Evening./⑦Good night./⑧Night. について論じている。これらは「正式な挨拶表現」なのだろうか、「くだけた挨拶表現」なのだろうか。また、これらは「会ったとき」に使われるのだろうか、「別れるとき」に使われるのだろうかである。

第3章「See you. など」では see you を用いる①See you./②See you later./③See you around./④See you soon./⑤See you tomorrow. について論じている。これらは相手と再会する時が「わかっている」場合に用いられるのだろうか、相手と再会する時が「わかっていない」場合に用いられるのだろうか。また、これらは「対等な者/目下の者」に対して用いられるのだろうか、「目上の者」に対して用いられるのだろうか。

第4章では bye を用いる①Good-bye./②Bye./③Bye-bye. について論じている。これらは「正式な挨拶表現」なのだろうか、「くだけた挨拶表現」なのだろうか。また、これら点は、相手が親しい友人や家族などである場合には、「小さな別れ」の挨拶になるのだろうか、「大きな別れ」の挨拶になるのだろうか。

第5章では Good luck. について論じている。Good luck. はどのようなニュアンスがあり、どのような状況で使われ

るのだろうか。また、親しい関係にある人と別れるときに用いられる Good luck. は Good-bye. と似た挨拶表現になるが、この2つはどのような違いがあるのだろうか。

第6章では①Have a good day. と⑩Have a nice day. 及びそれぞれの類似表現について論じている。①Have a good day. と⑩Have a nice day. はどのように使い分けられるのだろうか。また、①Have a good day. の good と⑩Have a nice day. の nice にはどのようなニュアンスの違いがあるのだろうか。

第7章では上で述べた以外の別れの挨拶表現を列挙し、それぞれのニュアンスやそれぞれが使われる状況などについてまとめる。

2. Good morning. など

morning/afternoon/evening/night を用いる挨拶表現に ① Good morning./② Morning./③ Good afternoon./④ Afternoon./⑤ Good evening./⑥ Evening./⑦ Good night./⑧ Night. がある。一般に morning (朝) は夜明けから正午まで、afternoon (日中) は正午から夕暮れまで、evening (夕方) は夕暮れから就寝時まで、night (夜) は日没から夜明けまでを指す語である。そのため、この時間区分にしたがって①から⑧が使い分けられると説明されることがある。この時間区分による使い分けは基本的に誤りではないが、英語を母語とする者はこのような時間区分だけに従って①から⑧を使い分けているわけではない。

例えば、Good afternoon. は afternoon (日中) に相手と会ったときに用いられる挨拶であると説明されることがあ

る。しかし、話し手が英語を母語とする者で相手が話し手の親や兄弟や姉妹であるなら、たとえ afternoon (日中) の発話であっても Good afternoon. という挨拶を用いることは普通考えられない²⁾。これは日本語を母語とする者が自分の家族に「こんにちは」という挨拶することは考えられないのと同じ理由からである。つまり、Good afternoon. には日本語の「こんにちは」に似た正式でかたい響きがあり、自分の親や兄弟や姉妹に Good afternoon. と声をかければ、奇妙に聞こえるほど他人行儀なよそよそしい挨拶をしていることになってしまうためである。

この例からもわかるように、英語を母語とする者は①から⑧をただ morning (朝)/afternoon (日中)/evening (夕方)/night (夜) という時間区分だけにしがって使い分けているわけではない。では、英語を母語とする者は①から⑧をどのように使い分けているのだろうか。

正式な挨拶表現であるのか、くだけた挨拶表現であるのか、という点から ① Good morning./② Morning./③ Good afternoon./④ Afternoon./⑤ Good evening./⑥ Evening./⑦ Good night./⑧ Night. を比べると次の [ref. 1] になる。[ref. 1] において「正式な挨拶表現」は公的な場でも用いられる礼儀正しい挨拶表現であること、「くだけた挨拶表現」は親しい友人や家族などとの個人的な会話で用いられる気軽な挨拶表現であること示している。また、○はそれぞれに当てはまること、—はそれぞれに当てはまらないことを示している。

[ref. 1] Good morning. などの挨拶表現の相違 (1)		
	正式な挨拶表現	くだけた挨拶表現
① Good morning.	○	—
② Morning.	—	○
③ Good afternoon.	○	—
④ Afternoon.	—	○
⑤ Good evening.	○	—
⑥ Evening.	—	○
⑦ Good night.	○	—
⑧ Night.	—	○

① Good morning./③ Good afternoon./⑤ Good evening./⑦ Good night. は「正式な挨拶表現」である。③ Good afternoon. と⑤ Good evening. には特にかたくあらたまった響きがあり、一般に親しい友人や家族との個人的な会話で使われることはない³⁾。

② Morning./④ Afternoon./⑥ Evening./⑧ Night. は「くだけた挨拶表現」である。これらは基本的に親しい友人や家族など対して気軽な親しみを込めて使われるが、相手が

親しい友人や家族以外の人である場合にも使われることがある。これはあえてくだけた挨拶をすることによって実際以上の気軽な親しみを相手に伝えようとするときである。

[ex. 1] 自宅での夫婦の朝の会話。起きたばかりの夫が寝室から居間にやってきたところ。台所にいる妻が夫に声をかけている。

妻:“(1) *Morning, David.*”

「おはよう、デービッド」

夫:“(2) *Morning, Sue. How are you doing?*”

「おはよう、スー、元気？」

妻:“(3) *OK, thanks, love. Breakfast's ready.*”

「元気よ、ありがとう。朝食ができていますわよ」

[ex. 1] (1) で妻は夫に *Morning.* と声をかけ、[ex. 1] (2) で夫は妻に *Morning.* と応えている。このように、親しい関係にある者同士の個人的な会話では朝の挨拶として *Morning.* と *Morning.* が組み合わせて使われることがある。

Morning. は日本語の「おはよう」に似たくだけた気軽な挨拶表現である。そのため、[ex. 1] のような夫婦の朝の会話では親しみを込めて *Morning.* という挨拶が使われることが多い。一方、*Good morning.* は日本語の「おはようございます」に似た礼儀正しい丁寧な挨拶表現である。そのため、[ex. 1] のような夫婦の会話では *Morning.* の代わりに *Good morning.* が使われることは一般にない。

[ex. 2] Mr Hunt と Tom の大学構内での朝の会話。Mr Hunt は大学教授、Tom は Mr Hunt の講義を受けている大学生。Mr Hunt が Tom を見かけて声をかけている。

Mr Hunt: (1) “*Morning, Tom.*”

「おはよう、トム」

Tom: (2) “*Good morning, Mr Hunt.*”

「おはようございます。ハント先生」

Mr Hunt: (3) “*It's a beautiful day, isn't it?*”

「いい天気だね」

Tom: (4) “*Yes, it's lovely. How are you today, sir?*”

「そうですね、いい天気ですね。今日はお機嫌いかがですか、先生」

Mr Hunt: (5) “*I'm fine, thank you.*”

「元気です。ありがとう」

[ex. 2] (1) で Mr. Hunt は Tom に Morning. と声をかけ、[ex. 2] (2) で Tom は Good morning. と応えている。このように人と会ったときの朝の挨拶として Morning. と Good morning. が組み合わせて使われることもある。

[ex. 2] で大学教授の Mr Hunt は目上に当たり、大学生の Tom は目下に当たる。このような状況で Mr Hunt が Tom に Good morning. と声をかければ、形式的でかたい挨拶をしていることになる。そのため、Mr. Hunt は気軽な響きのある Morning. を使って Tom の気持ちを楽にさせようとしている。この Morning. という挨拶には目下の相手を思いやる優しさが込められている。

Mr Hunt から Morning. と声をかけられた Tom は Good morning. と応えている。このような状況で Tom が Morning. と声をかければ、目上の Mr Hunt に対してかなりくだけた挨拶をしていることになってしまう。そのため、Tom は Good morning. という礼儀正しい挨拶を選んで使っている。この Good morning. には目上の相手に対する敬意が込められている。

[ex. 3] 夕方のテレビ番組での会話。クイズ番組の冒頭で司会者が視聴者に対して挨拶をしているところ。この番組名は 'Double Your Money'。

司会者: (1) "Good evening, everyone and welcome to 'Double Your Money.' I'm your host Peter Cash."
「今晚は、皆さん。'Double Your Money' によろこそ。私は司会者のピーター・キャッシュです」

[ex. 3] はテレビ番組の冒頭での会話である。ここで司会者は視聴者に Good evening. と声をかけている。このような公的な場での会話では礼儀正しい挨拶として Good evening. が使われることがある。また、[ex. 3] のような公的な場での会話では発話の時間帯によって Good evening. の代わりに Good morning./Good afternoon. が使われることもある。

[ex. 3] のような公的な場での会話でも Good evening. の代わりに Evening. が使われることもある。また、発話の時間帯によって Good evening. の代わりに Morning./Afternoon. が使われることもある。Morning./Afternoon./Evening. はくだけた挨拶表現である。そのため、テレビを見ている大勢の人たちに対して礼儀正しい挨拶をしていることになる。

[ex. 4] 夕方のテレビ番組での会話。ニュース番組の終わりで司会者が視聴者に挨拶をしているところ。

司会者: (1) "That's all the news we have for you this evening. I'm Jim Peterson. Good evening, everyone. See you at the same time tomorrow evening."
「今晚のニュースは以上です。お送りしたのはジム・ピーターソンでした。皆さん、さようなら。また明日の夕方の同じ時間にお会いしましょう」

[ex. 4] はテレビ番組の終わりの会話である。ここで司会者は視聴者と別れるときの挨拶として Good evening. を使っている。

[ex. 4] のような公的な場での会話では別れの挨拶として Good morning./Good afternoon./Good evening./Good night. が使われることがある。この場合には Good morning. に Have a good morning. (よい朝を迎えてください)、Good afternoon. に Have a good afternoon. (よい午後を迎えてください)、Good evening. に Have a good evening. (よい夕刻を迎えてください)、Good night. に Have a good night. (よい夜を迎えてください) という気持ちが込められることになる。

[ex. 5] 自宅での母親と息子の夜の会話。母親が小学生の息子に就寝するように促しているところ。

母親: (1) "Well, I think it's time you went to bed, Rick."
「さあ、あなたはもう寝る時間ね、リック」

息子: (2) "OK, Mum."
「わかったよ。お母さん」

母親: (3) "Good night, love."
「おやすみなさい」

息子: (4) "Good night."
「おやすみなさい」

[ex. 5] で母親は息子に Good night. と声をかけ、息子は Good night. と応えている。この後息子は寝床に入って寝ることになる。このように、Good night. は就寝前の挨拶として使われることがある。

Good night. は日本語の「おやすみなさい」に似た礼儀正しい丁寧な挨拶であり、Night. は日本語の「おやすみ」に似たくだけた気軽な挨拶である。[ex. 5] のような就寝前の親子の会話では Good night. の代わりに Night. が使われることもある。この場合には Good night. が使われる場合よりも気軽でくだけた挨拶をしていることになる。

[ex. 6] John と Tom の夜の会話。彼らは親しい友人同士。いっしょに街中を歩いてきた後で別れを告げようしているところ。

John: (1) "See you tomorrow, Tom."
「また明日、トム」

Tom: (2) "OK. Night, John."
「わかったよ。おやすみ、ジョン」

John: (3) "Night, mate."
「おやすみ」

[ex. 6] で Tom は John に Night. と声をかけ、John は Night. と応えている。[ex. 6] は街中での会話である。これから家まで帰る Tom と John はこの後すぐに就寝するわけではない。この点から考えれば、[ex. 6] の Night. は「おやすみなさい」という就寝前の挨拶というよりも「さようなら」に近い別れの挨拶として使われていることになる⁴⁾。

Good night. も Night. も [ex. 5] (3) (4) のように「おやすみなさい」という意味を込めた就寝前の挨拶として使われることもあれば、[ex. 6] (2) (3) のように「さようなら」という意味を込めた別れの挨拶として使われることもある。ただし、別れの挨拶として使われる Good night. にはかたい響きがあり、[ex. 6] (2) (3) のような親しい友人との会話では使われることは少ない。

相手と会ったときに使われるのか、相手と別れるときに使われるのか、という点から①から⑧を比べると次の [ref. 2] になる。[ref. 2] において「会ったとき」は相手と会ってすぐに使われること、「別れるとき」は相手と会ってしばらくしてから相手と別れるときに使われることを示している。また、○はそれぞれに当てはまること、△はまれにそれぞれに当てはまること、—はそれぞれの場合に当てはまらないことを示している。

	会ったとき	別れるとき
① Good morning.	○	△
② Morning.	○	—
③ Good afternoon.	○	△
④ Afternoon.	○	—
⑤ Good evening.	○	△
⑥ Evening.	○	—
⑦ Good night.	—	○
⑧ Night.	—	○

主に①Good morning./③Good afternoon./⑤Good evening. は相手と「会ったとき」に使われる。まれに相手と「別れるとき」に使われることもあるが、これはテレビ番組や演説などの公的な場での会話で大勢の人たちに別れの挨拶をするときだけである。

②Morning./④Afternoon./⑥Evening. は相手と「会ったとき」に使われる挨拶表現であり、相手と「別れるとき」に使われることはない。例えば、[ex.4] のような状況では Good evening. の代わりに②Morning./④Afternoon./⑥Evening. が使われることはない。これは②Morning./④Afternoon./⑥Evening. と①Good morning./③Good afternoon./⑤Good evening. の相違点の一つである。

⑦Good night./⑧Night. は相手と「別れるとき」に使わ

れ、相手と「会ったとき」に使われることはない。⑦Good night./⑧Night. は「おやすみなさい」という意味を込めた就寝前の挨拶だけでなく、「さようなら」という意味を込めた似た別れの挨拶としても使われる。⑦Good night. が就寝前の挨拶として使われた場合には特にかたい響きは込められないが、⑦Good night. が別れの挨拶として使われた場合にはかたい響きが込められる。

3. See you. など

人と別れるときに①See you. と言うことがある。また、人と別れるときに②See you later./③See you around./④See you soon./⑤See you tomorrow. とすることも⁵⁾ある。英語を母語とする者は see you を用いるこれらの挨拶表現をどのように使い分けているのだろうか。

①See you./②See you later./③See you around./④See you soon./⑤See you tomorrow. の一般的な特徴を次の [ref. 3] にまとめる。

[ref. 3] see you を用いる挨拶表現の相違 (1)

① See you.

「また会いましょう」というニュアンス。次に会う場所や時について述べていないため、②③④⑤よりも気軽にくださった響きがある。

② See you later.

「また later (後で) see you (会いましょう)」というニュアンス。(a) 発話された日と同じ日にもう一度相手と再会することになっている場合、(b) 発話された日の翌日以降に相手と再会することがわかっている場合、(c) 相手といつ再会するのかわかっていない場合も使われる。イギリス英語では (a) で使われることが多く、アメリカ英語では (a) (b) (c) のいずれでも使われる。特に (b) と (c) の場合には相手と会う時が later (後で) というあいまいな語で示されることにため、①See you. に似た気軽にくださった挨拶になる。

③ See you around.

「around (近くのどこかで) see you (会いましょう)」というニュアンス。基本的に、すぐに around (近くのどこかで) で再会しそうな相手に対して使われる。

④ See you soon.

「soon (すぐに) see you (会いましょう)」というニュアンス。あいまいでいい加減な響きがある。これは soon に「(いつになるかわからないが) すぐに」というニュアンスがあるため。つまり、状況次第で「soon (すぐに) see you (会いましょう)」が「10分後に会いましょう」「1ヶ月後に会いましょう」「1年後に会いましょう」あるいは「もう永遠に会わないかもしれませんが、いつか会いましょう」といういずれの意味に

もなりうるため⁶⁾。

⑤ See you tomorrow.

「tomorrow (明日) see you (会いましょう)」というニュアンス。tomorrow (明日) に会うことがわかっている相手に対して使われる。tomorrow (明日) に再会することをはっきりと表しているため、See you. よりも丁寧に礼儀正しい挨拶表現になる⁷⁾。再会する時だけでなく See you at the station. (駅で会いましょう) などのように再会する場所を示すこともある。これも at the station (駅で) 再会することをはっきりと示しているため、See you. よりも丁寧に礼儀正しい挨拶表現になる。

① See you./ ② See you later./ ③ See you around./ ④ See you soon./ ⑤ See you tomorrow. を、相手と再会する時がわかっている場合に使われるのか、相手と再会する時がわかっていない場合に使われるのか、という点から比べると [ref.4] になる。[ref. 4] において「わかっている」は相手と再会する時がわかっている場合、「わかっていない」は相手と再会する時がわかっていない場合を示している。また、○はそれぞれの場合に一般に使われること、—はそれぞれの場合に一般に使われないことを示している。

[ref. 4] see you を用いる挨拶表現の相違 (2)		
再会する時	わかっている	わかっていない
① See you.	○	○
② See you later.	○	○
③ See you soon.	—	○
④ See you around.	—	○
⑤ See you tomorrow.	○	—

① See you. と ② See you later. は相手と再会する時が「わかっている」場合にも「わかっていない」場合にも使われる。特に相手と再会する時がわかっているが① See you. や ② See you later. が使われる場合には、再会する時をあえて明確に示していないことになるため、特に目立った気軽な挨拶表現になる。

③ See you soon. や ④ See you around. は相手と再会する時や場所を soon (すぐに) や around (どこかその辺りで) であいまいに示す挨拶表現である。そのため、再会する時が「わかっていない」場合に使われることはあるが、再会する時が「わかっている」場合に使われることは一般にない。

⑤ See you tomorrow. は相手と再会する時を tomorrow (明日) という語ではっきりと示す挨拶表現である。tomorrow (明日) に再会することが「わかっている」場

合に使われることはあるが、再会する時が「わかっていない」場合に使われることはない。

[ex. 7] Lucy と Cindy の会話。Lucy と Cindy はどちらも高校生で親しい友人同士。しばらく話をした後で Lucy がその場から立ち去ろうとしている。Lucy と Cindy は明日学校で再会することがわかっている。

Lucy: ⁽¹⁾ “Well, I’m sorry but I must be going.”

「さて、ごめんね。でももういなくなっちゃ」

Cindy: ⁽²⁾ “So soon?”

「もう行くの」

Lucy: ⁽³⁾ “Yes, I’ve got to see a friend.”

「うん、友達に会わなくちゃいけないんだ」

Cindy: ⁽⁴⁾ “OK. *Talk to you later.*”

「わかったわ。じゃあ、またね」

Lucy: ⁽⁵⁾ “*See you, Cindy.*”

「じゃあね、シンディー」

Cindy: ⁽⁶⁾ “*See you, Lucy.*”

「じゃあね、ルーシー」

[ex. 7] で Lucy と Cindy は親しい友人同士であり、明日再会することがわかっている。このような状況では [ex. 7] (5) や [ex. 7] (6) のように See you. が別れの挨拶として使われることがある。

See you. は相手と再会する時を示さない別れの挨拶である。[ex. 7] (5) (6) のような状況では相手と明日に再会することがわかっているが、そのことを示していないことになるため、特に目立った気軽な挨拶になる。親しい友人同士の会話ではこのような状況で See you. が使われることが多い。

[ex. 7] (5) (6) のような状況では See you. の代わりに See you later. が使われることもある。この場合には、相手と明日に再会することがわかっているが、その時を later (後で) というあいまいな語で示していることになるため、See you. に似ただけの気軽な挨拶になる。ただし、あいまいながらも再会する時を later で示しているため See you. よりもやわらかな親しみがある (イギリス英語では [ex. 7] (5) (6) のように相手と明日再会することがわかっている状況で See you later. を使うことは少ない)。

[ex. 7] (5) (6) のような状況では See you. の代わりに See you tomorrow. が使われることもある。See you tomorrow. は「また tomorrow (明日) see you (会いましょう)」という挨拶であるため、[ex. 7] (5) (6) のように相手が親しい友人ある場合には、相手と明日再会することを楽しみ

にしている気持ちが込められる。

[ex. 8] あるパーティーでの George と Janet の会話。
George と Janet はパーティーの会場で初めて会った。しばらく話をした後で George がその場から立ち去ろうとしている。George と Janet は今後再会するかどうかかわかっていない。

George: ⁽¹⁾ “Well, I’m afraid I’ve got to go now.”

「ああ、もう行かなくちゃ」

Janet: ⁽²⁾ “Oh, yes? Well…Nice talking to you, George.”

「あら、そうなの。話ができてよかったわ、ジョージ」

George: ⁽³⁾ “Nice talking to you, Janet. *See you around.*”

「僕も君と話ができてよかったよ、ジャネット。またね」

Janet: ⁽⁴⁾ “Yeah, *see you around.*”

「うん、またね」

[ex. 8] で George と Janet は初対面同士であり、いつ再会するのかかわかっていない。このような状況では [ex. 8] (3) や [ex. 8] (4) のように別れの挨拶として *See you around.* が使われることがある。

See you around. は「around (どこかでその辺りで) *see you* (会いましょう)」という挨拶表現である。そのため、[ex. 8] (3) (4) のように主に相手と再会する時がわかっていないときに使われる。特に相手が話し手の近くに住んでいることがわかっている場合など、すぐに相手と再会しそうな場合に使われることが多い。

[ex. 8] (3) (4) のような状況では *See you around.* の代わりに *See you.* や *See you later.* が使われることもある(イギリス英語では [ex. 8] (3) (4) のように相手といつ再会するのかかわかっていない状況で *See you later.* を使うことは少ない)。*See you.* と *See you later.* はどちらも親しい友人や家族などに対して使われるくだけた気軽な挨拶表現である。そのため、[ex. 8] (3) (4) のような状況で初対面の相手に *See you.* や *See you later.* を使えば、特にくだけた気軽な挨拶をしていることになる⁸⁾。

[ex. 9] ある小学校での生徒と教師の会話。放課後、生徒は宿題を忘れたことで教師から注意を受けた。教師の説諭が終わり生徒はその場から立ち去ろうとしている。生徒と教師は明日学校で再会することがわかっている。

生徒: ⁽¹⁾ “May I go now?”

「もう行ってもいいですか」

教師: ⁽²⁾ “Yes, but make sure you don’t forget your homework tomorrow.”

「いいわよ、でも明日は宿題を忘れないようにしなさい」

生徒: ⁽³⁾ “No, I won’t.”

「はい、わかりました」

教師: ⁽⁴⁾ “OK. *See you tomorrow*, Tommy.”

「では、また明日ね、トミー」

生徒: ⁽⁵⁾ “*See you tomorrow*, Miss Green.”

「では失礼します、グリーン先生」

[ex. 9] は生徒と教師の会話であり、互いに明日再会することがわかっている。このような状況では [ex. 9] (4) や [ex. 9] (5) のように *See you tomorrow.* が別れの挨拶として使われることがある。

See you tomorrow. は「tomorrow (明日に) *see you* (会いましょう)」という挨拶表現である。したがって、[ex. 9] (4) や [ex. 9] (5) のように教師と生徒の間で使われれば、相手との再会する時を確認し合う礼儀正しい丁寧な挨拶になる。

[ex. 9] で教師は目上に当たり、生徒は目下に当たる。したがって、[ex. 9] (4) では目上の教師が目下の生徒に *See you tomorrow.* と言っていることになる。このような状況では *See you tomorrow.* の代わりに *See you.* や *See you later.* が使われることもある。この場合には、目上の者から目下の者にくだけた気軽な挨拶をしていることになるため、目下の相手の気持ちを楽にさせようとするやさしさが込められることになる。

一方、[ex. 9] (5) では目下の生徒が目上の教師に *See you tomorrow.* と言っていることになる。このような状況では一般に *See you tomorrow.* の代わりに *See you.* や *See you later.* が使われることはない。これは *See you.* や *See you later.* が目上に者に対する挨拶としては気軽すぎるためである。

① *See you.* / ② *See you later.* / ③ *See you around.* / ④ *See you soon.* / ⑤ *See you tomorrow.* を、対等な者や目下の者に対して使われるのか、目上の者に対して使われるのか、という点からを比べると [ref. 5] になる。[ref. 5] において「対等な者/目下の者」は親しい友人同士で話すときや教師が生徒と話するときなど対等な者や目下の者を相手とする場合、「目上の者」は生徒が教師に話すときなど目上の者を相手とする場合を示している。また、○はそれぞれの場合に使われること、—はそれぞれの場合に使われないことを示している。

[ref. 5] *see you* を用いる挨拶表現の相違 (3)

相手	対等な者/目下の者	目上の者
① <i>See you.</i>	○	—
② <i>See you later.</i>	○	—

③ See you around.	○	—
④ See you soon.	○	—
⑤ See you tomorrow.	○	○

相手と再会する時や場所をはっきりと示さない① See you./② See you later./③ See you around./④ See you soon. には気軽な響きがある。そのため、この4つは「対等な者/目下の者」に対して使われることはあるが、一般に敬意を示す必要のある「目上の者」に対して使われることはない。

相手と再会する時を示す⑤ See you tomorrow. は「対等な者/目下の者」に対しても「目上の者」に対しても使われる。「対等な者/目下の者」に対して⑤ See you tomorrow. を使えば、「tomorrow (明日に) see you (あなたと会いたい)」という親しみを込めた挨拶になる。また、「目上の者」に対して⑤ See you tomorrow. を使えば、「tomorrow (明日に) see you (必ずあなたにお会いします)」という気持ちを込めた礼儀正しい丁寧な挨拶をしていることになる⁹⁾。なお、このことは相手と再会する時や場所を示す See you next Monday. や See you at the station. などにおいても同様である。

4. Good-bye. など

① Good-bye. は最もよく知られている別れの挨拶表現のうちの一つだが、相手が親しい友人や家族などである場合には① Good-bye. が使われることはまれである。また、② Bye. と③ Bye-bye. は幼い子供によって使われると説明されることもあるが、② Bye. と③ Bye-bye. は話し手が大人の場合でも相手が大人の場合でも使われることがある。英語を母語とする者は① Good-bye./② Bye./③ Bye-bye. をどのように使い分けているのだろうか。

礼儀正しい挨拶表現なのか、くだけた挨拶表現なのか、という点から① Good Bye./② Bye./③ Bye-bye. を比べると次の [ref. 6] になる。[ref. 6] で使われている語と記号は [ref. 1] と同じである。

[ref. 6] Good bye. などの挨拶表現の相違 (1)		
	正式な挨拶表現	くだけた挨拶表現
① Good bye.	○	—
② Bye.	—	○
③ Bye-bye.	—	○

① Good-bye. は「正式な挨拶表現」である。したがって、テレビ番組や演説などで大勢の人に対して一度に別れを告げるとき、個人的な会話で目上の人や初対面の人に対して別れを告げるときなど、礼儀正しく別れの挨拶をするとき

に使われる。一方、個人的な会話で親しい友人や家族などに別れを告げるときには、まれな場合を除いて① Good-bye. が使われることはない。これは① Good-bye. が「正式な挨拶表現」であり、個人的な会話で① Good-bye. を使えば親しみに欠けてしまうためである。

② Bye. は① Good-bye. の「くだけた挨拶表現」であり、③ Bye-bye. は② Bye. よりもさらに「くだけた挨拶表現」である¹⁰⁾。したがって、② Bye. と③ Bye-bye. はどちらも個人的な会話で親しい友人や家族などに別れを告げるときに使われる。また、テレビ番組や演説などで大勢の人に対して一度に別れを告げるとき、個人的な会話で目上の人や初対面の人に対して別れを告げるときなどでも、親しみを込めた気軽な挨拶をしようとする場合には② Bye-bye. や③ Bye. が使われることもある。

[ex. 10] あるテレビ番組での会話。番組の終わりで司会者が視聴者に向かって別れの挨拶をしているところ。

司会者: ⁽¹⁾ “Well, that’s the end of our program today. I’m Peter Watson. *Good-bye* for now. See you next Monday evening.”

「さて今日の番組はこれで終わりです。お送りしたのはピーター・ワトソンでし。では、さようなら。また来週の月曜日の夕方にお会いしましょう」

[ex. 10] はテレビ番組内の会話である。[ex. 10] (1) で司会者はこの番組を見ている多くの視聴者に対して Good-bye. と言っている。

[ex. 11] ある小学校の教室内での会話。一日の授業が終わって、担任の教師が教室内にいる生徒たちに別れの挨拶をしているところ。

教師: ⁽¹⁾ “Are there any more questions?”

「もう質問はありませんか」

生徒たち: ⁽²⁾ “…”

「…」

教師: ⁽³⁾ “OK. That’s all for today. *Good-bye* everyone. See you tomorrow.”

「では、今日はこれで終わりです。皆さん、さようなら。また明日」

[ex. 11] は小学校の教室内における会話である。[ex. 11] (3) で教師は教室内にいる数十人の生徒たちに対して Good-bye. と言っている。

[ex. 10] (1) と [ex. 11] (3) では Good-bye. が大勢の人たちに対する別れの挨拶として使われている。このような状況では Good-bye. の代わりに Bye. や Bye-bye. が使われ

ることもある。Good-bye. を使った場合には大勢の人たちに対して礼儀正しいかたい挨拶をしていることになり、Bye. や Bye-bye. を使った場合には大勢の人に対して親しみを込めたやわらかな挨拶をしていることになる。

[ex. 12] ある大学構内での会話。学生が教授のオフィスを訪れて質問し、それに教授が答え終えたところ。今大学生は教授のオフィスから立ち去ろうとしている。教授と学生は明日教室で再会することがわかっている。

教授: (1) "So, you are ready for tomorrow's exam now, aren't you?"

「では、もう明日の試験の準備はできたね」

学生: (2) "Well, not yet. I'm going to do a bit more work tonight."

「ああ、まだです。今晚一生懸命勉強します」

教授: (3) "OK."

「そうだね」

学生: (4) "Thank you very much for answering all my questions."

「質問に全部答えていただき、ありがとうございます」

教授: (5) "Not at all. Bye, John."

「どういたしまして。じゃあね、ジョン」

学生: (6) "Good-bye, sir."

「はい、失礼します、先生」

[ex. 12] (5) で教授は学生に Bye. と声をかけ、[ex. 12] (6) で学生は Good-bye. と応えている。この [ex. 12] (5) のような個人的な会話では Bye. と Good-bye. が組み合わされて使われることがある。

[ex. 12] で教授は目上に当たり、学生は目下に当たる。したがって、[ex. 12] (5) で教授は目下の学生に対してくれた Bye. を使っていることになる。この Bye. には目下の学生を気楽にさせようというやさしさが込められている。一方、[ex. 12] (6) で学生は目上の教授に対して正式な Good-bye. を使っている。この Good-bye. には目上の教授に対する敬意が込められている。

[ex. 13] あるパーティーでの George と Janet の会話。George と Janet はパーティーの会場で初めて会い、しばらく話をした。今 George はその場から立ち去ろうとしている。George と Janet は今後再会するかどうかわかっていない。

George: (1) "Well, I'm afraid I've got to go now."

「ああ、もう行かなくちゃ」

Janet: (2) "Oh, yes? Well... Nice talking to you, George."

「あら、そうなの。話ができてよかったわ、ジョージ」

George: (3) "Nice talking to you, Janet. Good-bye"

「僕も君と話ができてよかったよ、ジャネット。元気でね」

Janet: (4) "Yeah, good-bye."

「うん、元気でね」

[ex. 13] (3) で George は Janet に Good-bye. と声をかけ、[ex. 13] (4) で Janet は Good-bye. と応えている。この [ex. 13] (3) のような個人的な会話では Good-bye. と Good-bye. が組み合わされて使われることがある。

[ex. 13] で George と Janet は初対面である。そのため、別れの挨拶として礼儀正しい Good-bye. が使われている。[ex. 13] (3) (4) のような状況では Good-bye. の代わりに Bye. や Bye-bye. が使われることもある。この場合には初対面の相手に親しみのある気軽な挨拶をしていることになる。

[ex. 14] 夫婦の朝の自宅で会話。職場に向かう夫が自宅の玄関から出て行こうとしている。妻は玄関に立って夫を見送っている。

夫: (1) "I'm off now, Vicky."

「行ってくるよ、ヴィッキー」

妻: (2) "What time will you be back tonight?"

「今晚は何時に帰ってくるの」

夫: (3) "I think I'll be home before seven."

「7時前には帰れると思うよ」

妻: (4) "OK, see you, Tony."

「わかったわ。じゃあね、トニー」

夫: (5) "Bye, love."

「じゃあね」

妻: (6) "Bye, love."

「じゃあね」

[ex. 14] (5) で夫は妻に Bye. と声をかけ、[ex. 14] (6) で妻は Bye. と応えている。このような個人的な会話では Bye. と Bye. が組み合わされて使われることがある。

[ex. 14] は夫婦の会話である。[ex. 14] (5) (6) の Bye. には夫婦の間の気軽な親しみが込められている。[ex. 14] (5) (6) では Bye. の代わりに Bye-bye. が使われることも

ある。この場合には Bye. を使う場合よりもさらに気軽な親しみが込められることになる。[ex. 14] のような夫婦の会話では Bye. や Bye-bye. の代わりに Good-bye. が使われることはない。これはなぜだろうか。

Good-bye. の原義は God be with you. (神様があなたとともにありますように) であると言われる。この原義から考えれば、Good-bye. には「神様があなたを守ってくださいますように」という相手の無事や健康を願うあらたまったニュアンスがあることになる。

[ex. 10] (1) ではテレビ番組で司会者が視聴者に対して Good-bye. を使い、[ex. 11] (3) では小学校の教室で教師が生徒たちに Good-bye. を使い、[ex. 12] (6) では学生が教授に対して Good-bye. を使い、[ex. 13] (3) (4) では初対面の者同士が Good-bye. を使っている。これらの Good-bye. にはいずれの場合にも相手である大勢の人たち、目上の人、初対面の人の無事や健康を祈る気持ちが込められている。

一方、[ex. 14] は日常の夫婦の朝の会話である。この発話の日の夕方には夫が帰宅し、この夫婦は再会することになる。このような状況では夫婦の間の一時的な別れの挨拶として Bye. が使われる。ここで Bye. の代わりに Good-bye. を使えば、同じ日の夕方に再会することがわかっている夫婦の間で相手の無事や健康を祈る大げさな挨拶をしていることになってしまう。これは明らかに夫婦の間で使われる一時的な別れの挨拶として大げさで不自然である。

親しい友人や家族の間でもまれに Good-bye. が使われることがある。これは相手と長い間 (あるいは永久に) 再会しないことがわかっている場合である。

例えば、自殺を決意した人なら自分の家族や友人に宛てた遺書の中で Good-bye. と書くことがある。この場合には、死んでいく話し手が永久に会わなくなる自分の家族や友人に対して「(もう会うことはないけれど) さようなら、お元気で」という気持ちを伝えていることになる。

また、映画や劇などで話し手が銃で相手を殺そうとする場面があるが、この場合には銃身の先を相手に向けた話し手が Good-bye. とすることがある。この Good-bye. は死んでいく相手に対して「(もう会うことはないけれど) お元気で」という気持ちを伝えていることになる (自分が殺そうとしている相手に対して「お元気で」という気持ちを伝えている点では皮肉になるとも言える)。

このように親しい友人や家族などに対して Good-bye. と言えば、「(もう会うことはないかもしれないけれど) さようなら、お元気で」というニュアンスが込められることになる¹¹⁾。これは正式な別れの挨拶表現である Good-bye. を親しい関係にある人に対して使うと、普通とは異なるあらたまった特別な別れの挨拶をしているように聞こえるためである。

親しい友人や家族などに別れの挨拶をする場合における ① Good-bye./② Bye./③ Bye-bye. の相違を [ref. 7] にま

める。[ref. 7] は [相手が親しい友人や家族などである場合] の比較である。[ref. 7] において「小さな別れ」は翌日や数日後などすぐに再会することがわかっている相手と別れる場合、「大きな別れ」は長い間あるいは永久に再会しないことがわかっている相手と別れる場合を示している。また、○はそれぞれの場合に使われること、—はそれぞれの場合に使われないことを示している。

[ref. 7] Good-bye. などの挨拶表現の相違 (2) [相手が親しい友人や家族などである場合]		
	小さな別れ	大きな別れ
① Good-bye.	—	○
② Bye.	○	—
③ Bye-bye.	○	—

相手が親しい友人や家族などである場合には、① Good-bye. が「大きな別れ」の挨拶として使われることがあり、② Bye. や③ Bye-bye. が「小さな別れ」の挨拶として使われることがある。ただし、相手が親しい友人や家族などと別れの挨拶を交わすときには、一般に② Bye. や③ Bye-bye. が使われ、① Good-bye. が使われることはまれである。これは親しい友人や家族などに対しては「小さな別れ」をすることが圧倒的に多く、「大きな別れ」を告げることがまれであるためである¹²⁾。

5. Good luck. と Good-bye.

Good luck. は I wish you *good luck*. (あなたに幸運があることを願っています) という相手の good luck (幸運) を願う表現である。この Good luck. が親しい友人などへの別れの挨拶として使われると、相手の無事や健康を祈る気持ちが込められることになり、God be with you. (神様があなたとともにありますように) という原義の Good-bye. によく似た別れの挨拶になる。Good luck. は Good-bye. とどのような点で異なるのだろうか。

[ex. 15] Tom と John の会話。彼らは親しい友人同士。明日 John は運転免許証の試験を受けることになっている。

Tom: (1) "Have you got your driving licence yet, John?"

「もう運転免許証は取れたの、ジョン」

John: (2) "Not yet. Actually, I'm taking the test tomorrow?"

「まだだよ。実は明日運転免許の試験があるんだ」

Tom: (3) "Oh, *good luck*."

「そうなんだ、うまくいくといいね」

John: "Thanks."
「ありがとう」

[ex. 15] で John は明日運転免許の試験を受けることになっている。それを知った Tom は [ex. 15] (3) で John に "Oh, good luck." と言っている。この Good luck. は日本語の「うまくいくといいね」や「がんばって」に当たることばであり、そこには John が運転免許の試験に合格することを願う励ましの気持ちが込められている。

[ex. 16] Dick と Ben の会話。彼らは親しい友人同士。

Dick: ⁽¹⁾ "Did you ask Jenny out again, Ben?"
「君はまた彼女をデートに誘ったのか」

Ben: ⁽²⁾ "Yes. I've asked her out three times now, but she's turned me down every time. Still, I'm going to try again."
「そうだよ。彼女を三回誘ったけれど、彼女は僕の申し出を全部断ったんだ。でも、もう一度彼女を誘うつもりなんだ」

Dick: ⁽³⁾ "Oh, good luck, mate!"
「へえ、(あきれかえって) 幸運を祈るよ」

[ex. 16] で Ben には好きな女の子がいる。Ben はその彼女に 3 度デートを申し込んでいるが、すべて断られている。それでも Ben はその彼女のことをあきらめずに、もう一度彼女をデートに誘うと言っている。彼女に対してそれほど強い執着心を持つ Ben を見て、[ex. 16] (3) で Dick はあきれながら "Oh, good luck, mate." と言っている。この Good luck. は日本語の「(無理に決まっているけど) 幸運を祈るよ」や「(まあせいぜい) がんばって」に当たることばであり、そこには相手への揶揄や非難や皮肉が込められている。

[ex. 17] Dave と Chris の会話。Dave と Chris は親しい友人同士。Dave がこれまで住んでいた家を出て他の町に引っ越していきこうとしている。Dave と Chris はいつ再会することになるのかわかっていない。

Dave: ⁽¹⁾ "Well, I'm going now, Chris."
「じゃあ、もう行くね、クリス」

Chris: ⁽²⁾ "OK, mate. We'll all miss you, Dave."
「わかったよ。君がいなくなると皆寂しくなるよ、デイブ」

Dave: ⁽³⁾ "I'll miss you all, too. Anyway, let's keep in touch. Give me a call now and then and let me know how you're all doing."

「俺も皆がいないと寂しいよ。とにかく連絡し合おうよ。時々電話して、皆がどうしているか教えてくれよ」

Chris: ⁽⁴⁾ "I will."

「わかったよ」

Dave: ⁽⁵⁾ "Take care of yourself, Dave. Good luck."

「気をつけて、デイブ。元気で」

Chris: ⁽⁶⁾ "You, too."

「君も元気で」

[ex. 17] で Chris はこれまで住んでいた町を出ていきこうとしている。Chris が遠い町で暮らすことになれば、これからは Chris と簡単には会えなくなる。Dave は Chris と長い間 (あるいは永久に) 再会することがないかもしれないと思いながら、[ex. 17] (5) で Chris に "Take care of yourself, Dave. Good luck." と言っている。この Good luck. は日本語の「さようなら、気をつけて」に似た挨拶であり、そこには相手の無事や健康を願う気持ちが込められている。このように Good luck. が長い間 (あるいは永久に) 会わなくなる相手への別れの挨拶として使われることがある。

[ex. 17] (5) では Good luck. の代わりに Good-bye. が使われることもある。この場合には親しい友人に対してあらたまった Good-bye. という別れの挨拶が使われていることになる。そのため、相手の無事や安全を願う気持ちが込められた大きな別れの挨拶をしていることになる。このようなニュアンスが含まれる点で [ex. 17] (5) のような状況で使われる Good luck. と Good-bye. はよく似ている。

ただし、Good luck. は相手の good luck (幸運) を願う挨拶表現である。したがって、Good luck. が使われるのは、相手が good luck (幸運) を必要とする状況にいることがわかっている場合に限られる。例えば、[ex. 15] (3) では相手が運転免許の試験を受けることがわかっている状況で Good luck. が使われ、[ex. 16] (3) は相手が彼女にデートを申し込む状況で Good luck. が使われ、[ex. 17] (5) では相手と長く会わなくなることがわかっている状況で Good luck. が使われている。

一方、Good-bye. は相手がどのような状況にあるのかわからないまま使われることがある。例えば、[ex. 10] (1) ではテレビ番組の司会者がテレビを見ている視聴者に対して Good-bye. 言っているが、ここでテレビ番組の司会者は不特定多数のテレビの視聴者たちの個人的な状況をそれぞれ知っているわけではない。したがって、[ex. 10] (1) のように個人的な事情のわかっていない不特定の大勢の人たちに対して別れを告げる場合には、Good luck. が使われることは一般にない。

Good-bye. と Good luck. の相違を次の [ref. 8] にまとめる。[ref. 8] において「テレビ番組など」はテレビ番組や演説

などで不特定の大勢の人たちに対して別れの挨拶をする場合、「個人的な会話」は個人的な会話で特定の個人に別れの挨拶をする場合を示している。また、○はそれぞれの場合に使われること、—はそれぞれの場合に使われないことを示している。

[ref. 8] Good-bye. と Good luck. の相違		
	テレビ番組など	個人的な会話
① Good-bye.	○	○
② Good luck.	—	○

親しい友人や家族などと別れを告げる場合、① Good-bye. と② Good luck. はどちらも相手の無事や健康を願う大きな別れの挨拶として使われることがある。ただし、① Good-bye. は相手の個人的な事情に関わりなく一方的に相手の無事や健康を祈る響きがあるため、「個人的な会話」で特定の個人に対してだけでなく「テレビ番組など」で不特定の大勢の人たちに対して使われる。

一方、② Good luck. は相手の個人的な事情に配慮しながら相手の good luck (幸運) を祈る響きがあるため、「個人的な会話」で good luck (幸運) を必要としている特定の相手に対して使われることがあるが、「テレビ番組など」で個人的な事情がわからない不特定の大勢の人たちに対して使われることはない。

6. Have a good day. や Have a nice day. など

① Have a good day. と⑩ Have a nice day. はどちらも相手と別れるときの挨拶として使われることがある。この2つはそれぞれ「a good day (よい日) を have (過ごしてください)」と「a nice day (よい日) を have (過ごしてください)」と訳せるが、この訳語からでは両者の違いは伝わってこない。英語を母語とする者は① Have a good day. と⑩ Have a nice day. をどのように使い分けているのだろうか。

① Have a good day. と⑩ Have a nice day. が使われる状況の相違を次の [ref. 9] にまとめる。[ref. 9] において「休暇」はこれから相手が休暇を迎えようとしている場合、「仕事/勉強」はこれから相手が職場や学校で仕事や勉強をしようとしている場合を示している。また、○はそれぞれの場合に当てはまること、—はそれぞれの場合に当てはまらないことを示している。

[ref. 9] Have a good day. と Have a nice day. の相違		
相手の行動	休暇	仕事/勉強
① Have a good day.	○	○
⑩ Have a nice day.	○	—

① Have a good day. は相手が「休暇」に向かう場合でも、相手が「仕事/勉強」に向かう場合でも使われることがある。これは① Have a good day. に「充実した一日を迎えてください」というニュアンスがあるためである。つまり、「休暇」に向かう場合でも「仕事/勉強」に向かう場合でも、これから相手が a good day (充実した一日) を送る可能性があるためである。

⑩ Have a nice day. は相手が「休暇」に向かう場合に使われることがあるが、相手が「仕事/勉強」に向かう場合に使われることは一般にない。これは⑩ Have a nice day. に「楽しい一日を迎えてください」というニュアンスがあるためである。つまり、「休暇」に向かう相手に「a nice day (楽しい一日) を have (過ごしてください)」と言えば状況にあった適切な挨拶になるが、「仕事/勉強」に向かう相手に「a nice day (楽しい一日) を have (送る)」と言えば状況に合った適切な挨拶にならないためである。

[ex. 18] 夫婦の自宅での朝の会話。夫が自宅から職場に向かうところ。自宅に残る妻が夫を見送っている。

夫: ① “I’m off now, Lucy.”

「行ってくるよ、ルーシー」

妻: ② “OK, Steve. *Have a good day.*”

「わかったわ、ステイブ。行ってらっしゃい」

夫: ③ “You, too, love.”

「うん。行ってくるよ」

妻: ④ “Bye.”

「じゃあね」

夫: ⑤ “Bye.”

「じゃあね」

[ex. 18] (2) で妻は夫に Have a good day. と言っている。ここでは夫が職場に行くことがわかっているため、妻が夫に Have a nice day. と言うことは一般にない。

[ex. 19] Rick と Tetsu の会話。Rick と Tetsu は親しい友人同士。ロンドンに住んでいる Rick とロンドンに観光に来ている Tetsu が電話で話している。

Rick: ① “What are you doing today, Tetsu?”

「今日は何をするの、テツ」

Tetsu: ② “I’m going to the Tower of London.”

「ロンドン塔に行くんだ」

Rick: ③ “That’s great. Do you know how to get there?”

「それはいいね。行き方はわかるの」

Tetsu: (4) “Yes, I think so.”

「うん、わかると思う」

Rick: (5) “OK. *Have a nice day.*”

「じゃあ、楽しんできてね」

[ex. 19] (5) で Rick は Tetsu に *Have a nice day.* と言っている。ここでは Tetsu がロンドン塔の観光に出かけることがわかっているため、Rick が Tetsu に *Have a good day.* と言うことも考えられる。ただし、[ex. 19] (5) のような状況で親しい友人に対して声をかける場合には、*Have a good day.* よりも *Have a nice day.* が使われることが多い。これは *have a nice day.* の方が *Have a good say.* よりも気軽にやわらかい響きがあるためである。

[ex. 20] タクシーの運転手と乗客のタクシー内での会話。
目的地についてタクシーの運転手がタクシーを止めたところ。

運転手: (1) “Here we are.”

「はい、着きましたよ」

乗客: (2) “How much is that, please?”

「いくらですか」

運転手: (3) “That’s 7. 80.”

「7 ポンド 80 ペニーです」

乗客: (4) “Here you are. Keep the change.”

(料金を渡しながら)「はい。おつりは取ってください」

運転手: (5) “Thank you sir. *Have a good day.*”

「ありがとうございます。いってらっしゃい」

[ex. 20] (5) でタクシーの運転手は乗客に *Have a good day.* と言っている。*Have a good day.* には *Have a nice day.* よりも落ち着いた丁寧な響きがある。したがって、[ex. 20] (5) ような状況で使われる *Have a good day.* には目上に当たる乗客への敬意が込められているとも言える。

また、[ex. 20] でタクシーの運転手は乗客がこれからどこへ行くのかわかっていない。このような場合には *Have a nice day.* よりも *Have a good day.* が使われることが多い。これは相手が仕事に出かける場合でも遊びに出かける場合でも、*Have a good day.* が自然な挨拶になるためである。

ただし、乗客がこれからどこへ行くのかわかっていない場合でも、タクシーの運転手が乗客に *Have a nice day.* と声をかけることもある。これは乗客が遊びに行くと予想さ

れる場合である。例えば、ハワイなどの観光地のタクシーの運転手なら乗客に *Have a nice day.* と声をかけることも多い。これはハワイなどの観光地ではタクシーに乗る者の多くが休暇を過ごすためにやって来る観光客であるためである。この場合に使われる *Have a nice day.* には *Have a good day.* にない陽気で愛想のいい響きが込められる。

① *Have a good day.* と ⑩ *Have a nice day.* には多くの類似表現がある。次の [ref. 10] と [ref. 11] に ① *Have a good day.* と ⑩ *Have a nice day.* の類似表現とそれぞれが使われる状況をまとめる。[ref. 10] と [ref. 11] の語と記号は [ref. 9] と同じである。

[ref. 10]“Have a good ~.” が使われる状況		
相手の行動	休暇	仕事/勉強
① <i>Have a good day.</i>	○	○
② <i>Have a good time.</i>	○	○
③ <i>Have a good weekend.</i>	○	○
④ <i>Have a good summer.</i>	○	○
⑤ <i>Have a good New Year.</i>	○	○
⑥ <i>Have a good Christmas.</i>	○	○
⑦ <i>Have a good trip.</i>	○	○
⑧ <i>Have a good holiday.</i>	○	—
⑨ <i>Have a good vacation.</i>	○	—

① *Have a good day.* の *good* には日本語の「いい」に似た響きがあり、*satisfying* (満足な) や *fulfilling* (充実した) という内面的な判断に基づいた評価が含まれる。したがって、① *Have a good day.* には「*good* (満足できる) 一日を迎えてください」や「*good* (充実した) 一日を迎えてください」というニュアンスがある。そのため、相手が「休暇」に向かう場合でも相手が「仕事/勉強」に向かう場合でも、① *Have a good day.* はそれぞれの目的に合った自然な挨拶表現になりうる。

このニュアンスは同じ *good* を用いる ② *Have a good time./* ③ *Have a good weekend./* ④ *Have a good summer./* ⑤ *Have a good New Year./* ⑥ *Have a good Christmas./* ⑦ *Have a good trip.* にも含まれる。そのため、② から ⑦ は ① *Have a good day.* と同じように、相手が「休暇」に向かう場合でも、相手が「仕事/勉強」に向かう場合でも使われることがある。

なお、① *Have a good day.* の類似表現に ⑧ *Have a good holiday.* と ⑨ *Have a good vacation.* もある。この 2 つはどちらも「よい *holiday/vacation* (休暇) を迎えてください」という意味になるため、相手が「仕事/勉強」に向かう場合に使われ、相手が「休暇」に向かう場合に使われることはない¹³⁾。

[ref. 11] "Have a nice ~ ." が使われる状況		
相手の行動	仕事/勉強	休暇
⑩ Have a nice day.	—	○
⑪ Have a nice time.	—	○
⑫ Have a nice weekend.	—	○
⑬ Have a nice summer.	—	○
⑭ Have a nice New Year.	—	○
⑮ Have a nice Christmas.	—	○
⑯ Have a nice trip.	—	○
⑰ Have a nice holiday.	—	○
⑱ Have a nice vacation.	—	○

⑩ Have a nice day. の nice には日本語の「いい感じ」に似た響きがあり, happy (うれしい) や enjoyable (楽しい) という表面的な印象に基づいた評価が含まれる¹⁴⁾。したがって, ⑩ Have a nice day. には「nice (うれしい) 一日を迎えてください」あるいは「nice (楽しい) 一日を迎えてください」というニュアンスがある。そのため, 「休暇」に向かう相手に対して⑩ Have a nice day. と言えば目的に合った自然な挨拶になるが, 「仕事/勉強」に向かう相手に⑩ Have a nice day. と言えば目的に合わない不自然な挨拶になる。

このニュアンスは同じ nice を用いる ⑪ Have a nice time./⑫ Have a nice weekend./⑬ Have a nice summer./⑭ Have a nice New Year./⑮ Have a nice Christmas./⑯ Have a nice trip./⑰ Have a good holiday./⑱ Have a good vacation. にもある。したがって, ⑪ から ⑱ は ⑩ Have a nice day. と同じように, 相手が「休暇」に向かう場合に使われることはあるが, 相手が「仕事/勉強」に向かう場合に使われることは一般にない¹⁵⁾。

7. その他の別れの挨拶表現

ここまで相手と別れを告げるとき使われる挨拶表現について論じてきた。ここまで論じてきた挨拶表現以外にも, 相手と別れるときに使われる様々な挨拶表現がある。

[ex. 21] John は Tom に会うために Tom の家を訪れたが, Tom は留守だった。John は Tom の母親 Mrs Smith と話をしながらしばらく Tom を待ったが, Tom は帰ってきそうにない。そこで John は Tom の家から立ち去ることにした。

John: ⁽¹⁾ "Well, I'm afraid it's about time I was leaving now, Mrs. Smith."

「ああ, 残念ですがもう行かなくては行けない時間です。スミスさん」

Mrs Smith: ⁽²⁾ "Oh, so soon?"

「あら, もうそんな時間?」

John: ⁽³⁾ "Yes, unfortunately I must be going."

「はい, 残念ながら, 本当にもう行かなくてはなりません」

Mrs Smith: ⁽⁴⁾ "Nice talking to you, John. Say hello to your mum."

「お話を楽しかったわ, ジョン。お母さんによろしく言っておいてね」

John: ⁽⁵⁾ "OK thank you."

はい, ありがとうございます」

Mrs Smith: ⁽⁶⁾ "Take care."

「気をつけてね」

John: ⁽⁷⁾ "I will. See you, Mrs Smith."

「わかりました。さようなら, スミスさん」

Mrs Smith: ⁽⁸⁾ "See you, John."

「さようなら, ジョン」

[ex. 21] で John と Mrs Smith は Well./It's about time I was leaving./I must be going./Say hello to ~ ./Take care. を使っている。これらは相手と別れるときによく使われる口語表現である。これらを含めて相手と別れるときによく使われる挨拶表現とそれぞれの特徴や性質などを次の [ref. 12] にまとめる。

[ref. 12] 相手と別れるときによく使われる口語表現

① **Well.** ([ex. 21] (1) 参照)

別れの挨拶の前置き, あるいは話し手が立ち去ることを間接的に示す記号のような役割をする口語表現。会話の途中で一瞬の間を置いてから①を言えば, 話し手が別れを告げようとしていることが相手に伝わることになる。特に時計を見ながら①を言えば, この話し手の意図はより鮮明に相手に伝わることになる。①を聞いた相手は話し手が立ち去ろうとしていることを悟り, 相手と別れる気持ちの準備をすることになる。また, ①にはためらいが含まれているため「残念ながら立ち去らなくては行けない」という別れを惜しむ気持ちも同時に伝わることになる。

② **It's about time I was leaving.** ([ex. 21] (1) 参照)

「そろそろ I (私が) was leaving (立ち去る) 時間です」というニュアンスの口語表現。類似表現に It's about time I left./It's about time I was going./It's about time I went. などもある。was leaving や was going などの進

行形が使われると、話し手がすでに立ち去り始めているような緊迫感が込められる¹⁶⁾。

③ **I must be going.** ([ex. 21] (3) 参照)

「I (私は) going (行か) must (なくてははいけません)」というニュアンスの口語表現。類似表現に I must go./I have to go./I have to be going./I have to leave./I have to be leaving. などもある¹⁷⁾。②と同様に be going や be leaving のような進行形を使うと、話し手がすでに立ち去り始めているような緊迫感が込められる。

④ **Say hello to ~.** ([ex. 21] (4) 参照)

to 以下には相手の家族などが置かれる。「to (~に) hello (よろしく) say (言ってください)」という相手の家族を思いやる気持ちを伝える口語表現。基本的に話し手と to 以下の人が知り合いの場合に使われる。類似表現に Say hi to ~. もある¹⁸⁾。

⑤ **Take care.** ([ex. 21] (6) 参照)

「take care (気をつけて) 行ってください」というニュアンスの口語表現。相手への思いやりを込めて使われる。率直な命令文であるため、基本的に対等な者や目下の者に対して使われる。なお、応答としては You, too. や I'll. が使われる。You, too. には「you (あなた) too (も気をつけて行ってください)」というニュアンスがあるため、話し手も相手も発話している場所から立ち去る場合 (例えば、話し手と相手が街中で話をした後でその場から立ち去る場合) に使われる。また、I'll. には「(はい) I (私は) will (気をつけてきます)」というニュアンスがあるため、話し手が発話している場所から立ち去って相手が発話している場所に残る場合 (例えば、[ex. 21] (7) のように話し手が相手の家を訪れていて話し手が相手の家から立ち去る場合) に使われる。

⑥ **Take care of yourself.** ([ex. 17] (5) 参照)

Take care. に of yourself がつけ加えられた口語表現。意味の重心が yourself (あなた自身) にあり、「of yourself (あなた自身に) take care (気をつけてね)」のような響きがある。したがって、[ex. 17] (5) のように相手と別れた後長く会わなくなると思われるとき、相手が風邪をひいて健康状態に問題があるなど、相手のことを強く気にかけている気持ちを伝えようとするときに使われる。

⑦ **Talk to you later.** ([ex. 7] (4) 参照)

I'll talk to you later. (後でまたあなたと話したいと思っています) というニュアンスの口語表現。すぐに話をすることになりそうな相手に対して親しみを込めて使われる。率直で気軽な響きがあり、主に対等な者や目下の者に対して使われる。

⑧ **I'll miss you.** ([ex. 17] (2) (3) 参照)

「あなたがなくなると miss (さみしくなる)」というニュアンスの口語表現。恋人や親しい友人と別れの挨拶をするときなどに、別れを惜しむ強い気持ちを込めて使われる。[ex. 17] (3) のように we (私たち) を主語にした We'll miss you. が使われることもある。

⑨ **Let's keep in touch.** ([ex. 17] (3) 参照)

「keep in touch (連絡を取り合って) これからも長くつき合いを続けましょう」というニュアンスの口語表現。相手とすぐには再会しないことわかっている場合に使われる。率直で気軽な響きがあり、主に対等な者や目下の者に対して使われる。

⑩ **Take it easy.**

本来「のんびりやりなさい」や「気楽にやりなさい」という意味の慣用句。アメリカ英語では相手と別れるときにも使われる。気軽で率直な響きがある。

⑪ **So long.**

「あまり長くないうちにまた会いましょう」というニュアンスの口語表現。くだけた軽い響きがある一方、装飾的できどった響きがある。例えば、ラジオの DJ なら番組の最後に So long. と言うことがある。

⑫ **Give my best regards to ~.**

to 以下には相手の家族などが置かれる。「to (~に) my best regards (私の最高の敬意を) give (与えてください)」というニュアンス。④ Say hello to ~. と同様、基本的に話し手と to 以下の人が知り合いの場合に使われる。Say hello to ~. よりもずっとかたい響きがある。

⑬ **Remember me to ~.**

「~によりよく伝えてください」というニュアンス。⑫ に似た表現だが、⑫ よりもさらにかたい響きがある。主に手紙などの書きことばで使われる。

注 釈

- 1) 「口語英語研究 (1) 人名及び人名相当語句の使用に関して」(日本獣医生命科学大学研究報告 No 58), 「口語英語研究 (2) 人と会ったときの挨拶表現に関して」(日本獣医生命科学大学研究報告 No 59), 「口語英語研究 (3) Christmas や New Year に関わる表現及び Nice to meet you. や Nice meeting you などの挨拶表現に関して」(日本獣医生命科学大学研究報告 No 60) を参照。
- 2) 人と会ったときに使われる最も一般的な挨拶は hi や hello である。英語を母語とする者は時間の区分に関係なく人と会ったときには hi や hello と声をかけ合うことが多い。話し手が英語を母語とする者な

- ら、朝でも昼でも夜でも真夜中でも人に会ったときにはいつでも、hi や hello と声をかけることが最も多い。
- 3) やわらかい順に並べると、① Good morning./⑦ Good night./⑤ Good evening./③ Good afternoon. になる。この4つの中では特に③ Good afternoon. にかたい響きがある。
- 4) 日本語でも夜街中で友人などと別れるときに「さようなら」という意味を込めて「おやすみ」や「おやすみなさい」と言うことがある。この点で Good night/ Night. は日本語の「おやすみなさい」「おやすみ」によく似ていると言える。なお、この点も考慮して [ex. 6] (2) (3) の Night. は「おやすみ」と訳した。
- 5) See you again. を直訳すると「again (また) see you (会いましょう)」になる。そのため、英語を母語としない者が友人と気軽な別れの挨拶をするときに「また会いましょう」という意味を込めて See you again. を使うことがある。しかし、英語を母語とする者はそのような状況で See you again. を使うことは一般にない。これは again を含まない See you. に「また会いましょう」というニュアンスがあるためである。つまり、わざわざ again を添えて「again (また) see you (会いましょう)」と言えば、「(もう会うことはできないかもしれないけれど) I hope to see you again. (またあなたとお会いしたいですね)」という特別なニュアンスを込めた挨拶になってしまうためである。英語を母語とする者が See you again. を使うのは、相手と長く(あるいはずっと)会わなくなりそうな特別な場合だけである。例えば、長く続いていたテレビ番組が最終回を迎え、その番組の出演者が番組の最後で視聴者に別れの挨拶をするときなら See you again. とすることがある。この See you again. には「視聴者の皆さんとはもうお会いできませんが、できることなら again (もう一度) see you (お会いしたいものです)」という気持ちが込められる。
- 6) See you soon. は See you some day. に似た響きがある。See you some day. は「(いつ再会するかわかりませんが) some day (いつの日か) see you (会いましょう)」という挨拶表現であり、基本的に相手と長い間(あるいは永久に)再会しないことがわかっている場合に使われる。
- 7) See you tomorrow. の類似表現に See you next Monday. (次の月曜日に会いましょう)/See you next week. (来週会いましょう)/See you at the weekend. (週末に会いましょう)/See you in September. (9月に会いましょう)/See you at Christmas. (クリスマスに会いましょう)/See you at New Year. (元旦に会いましょう)/See you in the New Year. (新年に会いましょう)/See you next year. (来年会いましょう)/See you on your birthday. (あなたの誕生日に会いましょう)/See you next time. (次の機会に会いましょう)/See you then. (そのときに会いましょう) などがある。いずれも相手と再会する時を示しているため、See you tomorrow. と同様に丁寧な挨拶になる。
- 8) 一般に英語を母語とする者は See you. の一言だけで別れの挨拶を終えることはない。例えば、[ex. 8] (3) や (4) のような状況で英語を母語とする者が See you. を使う場合、“See you, Janet. Nice talking to you.” (じゃあね、ジャネット。話ができてよかったよ) George : Janet : “Yes, OK. See you, George.” (そうね。じゃあ、またね、ジョージ) などのように声をかけ合うのが一般的である。このように相手を名前で呼びかけ、他の別れの挨拶を添えると、別れを惜しむ気持ちが具体的に相手に伝わることになる。
- 9) See you ~. に相手との約束の確認や相手への指示が含まれることがある。例えば、[ex. 9] (4) (5) のような状況で教師が生徒に“See you in class tomorrow, Tommy.” と声をかけ、生徒が“See you tomorrow, Miss Green.” と応えることがある。この場合、生徒が“See you in class tomorrow.” と応えることは考えにくい。これは“See you in class tomorrow.” に「明日に教室で会いましょう」という相手への指示が含まれているためである。つまり、教師が生徒に“See you in class tomorrow.” (明日に教室で会いましょう) という指示を伝えても自然に聞こえるが、生徒が教師に“See you in class tomorrow.” (明日に教室で会いましょう) という約束の確認や指示を伝えると不自然に聞こえるためである。
- 10) 礼儀正しく丁寧な響きがある点で Good-bye. は日本語の別れの挨拶「さようなら」や「お元気で」に似ている。また、親しみのある軽い響きがある点で Bye. や Bye-bye. は日本語の別れの挨拶「じゃあね」「またね」に似ている。
- 11) 極めてまれではあるが、夫婦の間でも Good-bye. という別れの挨拶をすることも考えられる。例えば、夫婦が別居や離婚を決めて別々に暮らし始めるときなら、「(もう会うことはないかもしれないけれど) お元気で」という気持ちを込めて Good-bye. という別れの挨拶をすることがあるかもしれない。
- 12) 相手が親しい友人や家族などでない場合には、翌日や数日後などすぐに相手と再会することがわかっているときでも① Good-bye. が使われることがある。例えば、[ex. 10] (1) と [ex. 11] (3) では次の月曜日に再会することになる視聴者や明日に再会することになる生徒に対して Good-bye. が使われている。
- 13) holiday と vacation はどちらも「休暇」の意味で使われる。イギリス英語では holiday が使われることが多く、アメリカ英語では vacation が使われることが多い。
- 14) Have a good day. の good と Have a nice day. の nice の違いは、Good to see you. の good と Nice to meet you. の nice の違いに似ている。この点に関しては「口語英語研究 (3) Christmas や New Year に関わる表現及び Nice to meet you. や Nice meeting you などの挨拶表現に関して」(日本獣医生命科学大学研究報告 No 60) の第3章を参照。
- 15) 就寝しようとする相手に Have a good sleep. という

ことはあるが、就寝しようとする相手に Have a *nice* sleep. と言うことは一般にない。これは相手が就寝しようとしているとき、「a good sleep (十分な睡眠) have (とってください)」と言えば自然に聞こえるが、「a nice sleep (楽しい睡眠) have (とってください)」と言えば自然に聞こえないためである。また、授業に向かう相手に Have a *good* class. と言うことはあるが、Have a *nice* class. と言うことは一般にない。これは相手が授業を受けに行こうとしているとき、「a good class (充実した授業) have (受けてください)」と言えば自然に聞こえるが、「a nice class (楽しい授業) have (受けてください)」と言えば自然に聞こえないためである。

- 16) [ref. 12]②では「そろそろ～する時間だ」という意味で “It is about time～” の代わりに “It is time～” や “It is high time～” が使われることもある。“It is about time～”/“It is time～”/“It is high time～” のいずれにおいても、was leaving/left/were leaving/was leaving などの仮定法過去が使われる (この表現では伝統的に were leaving が使われてきたが、最近の口語では was leaving が使われることも多い)。
- 17) must は have to よりも強い義務を表す。したがって、

must を使う I must be going./I must go. には have to を使う I have to go./I have to be going./I have to leave./I have to be leaving. よりも「どうしても行かなくてはいけない」というニュアンスがあり、強く別れを惜しむ気持ちが込められている。

- 18) Say hi to～. は Say hello to～. よりも気軽に陽気な響きがある。Say hello to～. と Say hi to～. の違いは hello と hi の違いに等しい。hello と hi の相違に関しては「口語英語研究 (2) 人と会ったときの挨拶表現に関して」(日本獣医生命科学大学研究報告 No 59) の第 2 章を参照。

参 考 文 献

- ・英文法シリーズ (1976), 研究社
- ・英語語法大辞典 (1966), 大修館
- ・新英文法辞典 (1970), 三省堂
- ・現代英文法辞典 (1992), 三省堂
- ・Longman Dictionary of American English (1983), Pearson Education Limited
- ・Collins Cobuild English Language Dictionary (1987), Collins Sons & Co Ltd
- ・Oxford Advanced Learner's Dictionary (2000), Oxford University Press

Study of Colloquial English (4) : Concerning the Usage of Expressions Used When People Are Leaving

Mitsuru KIDO and Stuart J. SANDERSON

Division of the English Language, Nippon Veterinary
and Life Science University

Abstract

This article is a study of the usage of the following colloquial English expressions: (a) Good morning./Morning./Good afternoon./Afternoon./Good evening./Evening./Good night./Night. ; (b) See you./ See you later./See you around./See you soon./See you tomorrow. ; (c) Good-bye./Bye./Bye-bye.; (d) Good luck./ (e) Have a good day./Have a nice day. Based on discussion between native speakers of English and Japanese, this article analyzes in what situations these expressions are used.

Key words : Good morning./See you./ood-bye.

Bull. Nippon Vet. Life Sci. Univ., **61**, 71-86, 2012.